

「次世代 CSR におけるサステナビリティ教育指針」発表

◇日時 2010年5月20日(木) 18:30~20:00

◇場所 立教大学池袋キャンパス 12号館 地下1階 第1・第2会議室
《申し込み不要》

立教大学ESD研究センターでは、下記の通り、5月20日18:30より、企業と企業人が持続可能な社会を実現していく上で重要なポイントをまとめた「次世代 CSR におけるサステナビリティ教育指針~持続可能な社会の実現をめざす企業と企業人のためのESD(持続可能な開発のための教育)ガイドライン」(第一版)を発表します。

環境だけでなく途上国の貧困や人権そして平和などを含め、持続可能な社会をつくっていくことが国際社会の課題になるなか、日本政府の提案をもとに、2005年から国連「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」が世界で展開しています。当センターは、2007年から、様々な場におけるESDの研究と推進に取り組んできました。

中でもCSRチームは、持続可能な社会づくりにおける企業の責任の大きさに鑑み、ESDとCSR(企業の社会的責任)の接点について検討してきました。国内外の調査や多様な企業人や研究者、NGOや市民の参加によるワークショップなどの検討を経て、持続可能性(サステナビリティ)を考える上で必要不可欠な原則を、7つの指針としてまとめました。

「持続可能な開発」や「持続可能性」について、その基本となる原則を理解することはなかなか難しいことです。当指針は、企業関係者がその原則を容易に理解でき、それぞれの現場で応用ができるよう、極力シンプルな原則に絞り込んだのが特徴です。

私たちと未来・私たちと弱者・私たちと自然との「三つの公正」を、対話・参加・地域の知恵を活用した「三つのアプローチ」で深めることで、この時代の「危機をチャンスに」変えていくことをめざしています。

今後、この指針を多くの企業関係者に活用していただくことを期待し、下記の発表会を企画いたしました。どうぞ奮ってご参集の程、宜しく願い申し上げます。

◇出席者 ESD研究センターCSRチーム研究員(次頁をご参照ください)

◇プログラム(予定)

18:30~18:40 開会挨拶

18:40~19:10 ガイドラインの説明

19:10~19:40 各講師による説明

19:40~20:00 質疑応答

●立教大学ESD研究センターとは



〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教大学ミッチェル館別棟1F
Rosalie Leonard Mitchell Memorial Hall 3F, 3-34-1 Nishi-Ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 171-8501, JAPAN
Phone/FAX: +81-(0)3-3985-2686, E-mail: esdrc@grp.rikkyo.ne.jp

立教大学 ESD 研究センター(ESDRC)は、ESD(=持続可能な開発のための教育)が多様な社会活動の中で実質的に機能することを目標として、2007年3月に設立されました。立教大学 ESD 研究センターは『「持続可能な開発のための教育(ESD)」における実践研究と教育企画の開発』として、平成19年度の文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業に選定され、多種多様な研究と実践を行っています。

●CSRチームとは・研究員

企業等のCSR(Corporate Social Responsibility)活動における「環境」への取り組みの先進事例やESD活動の実態を国内、海外で調査し、調査・研究結果を活かし、教育における地域との連携、エコツーリズムなどの環境関連の企画の開発支援や、ESD活動を担う高度な人材育成プログラムの開発や実施を行います。

・阿部 治(あべ・おさむ)

立教大学 ESD 研究センター・センター長、社会学部および大学院異文化コミュニケーション研究科・教授。筑波大学、埼玉大学を経て現職。専門は環境教育と持続可能な開発のための教育(ESD)。

・川嶋 直(かわしま・ただし)

立教大学 ESD 研究センター・CSR チーム主幹、大学院異文化コミュニケーション研究科・特任教授。(財)キープ協会常務理事。環境教育・野外教育・森林環境教育の人材養成事業の企画・運営を担当。

・岡本 享二(おかもと・きょうじ)

ブレーメンコンサルティング(株)・代表取締役。IBM本社・環境部門の環境室長として、環境経営・環境会計・環境教育・CSRを担当し、2006年に独立。

・新谷 大輔(しんたに・だいすけ)

(株)三井物産戦略研究所・研究員。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・兼任講師。(特活)JANIC 理事。経済産業省「BOP ビジネス政策研究会」ワーキンググループメンバー。

・中西 紹一(なかにし・しょういち)

(有)プラス・サーキュレーションジャパン・代表。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・兼任講師。日本民族学会・会員。日本教育工学会・会員。CI・ブランド開発等の戦略プランナー。

・中野 民夫(なかの・たみお)

(株)博報堂で、環境・持続可能性・CSR・NGO・市民参加など社会テーマ関連業務に従事。またワークショップ企画プロデューサーとして、人と他者・自然・自分自身をつなぎ直すワークショップを実践。

・福田 秀人(ふくだ・ひでと)

事業戦略アドバイザー(サステナブル・マネジメント・リサーチ・代表)。大阪経済大学・客員教授。元立教大学21世紀社会デザイン研究科・教授。ランチェスター戦略学会・副会長。航空保安協会・評議員。

●「持続可能な開発のための教育」(ESD)とは

ESDとは、「Education for Sustainable Development」(持続可能な開発のための教育)の略です。ESDを簡潔に表現するならば、「持続可能な開発」に向けた「教育の再方向付け」とも言え、持続可能な開発を通じて全ての



〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1 立教大学ミッチェル館別棟1F
Rosalie Leonard Mitchell Memorial Hall 3F, 3-34-1 Nishi-Ikebukuro, Toshima-ku, Tokyo 171-8501, JAPAN
Phone/FAX: +81-(0)3-3985-2686, E-mail: esdrc@grp.rikkyo.ne.jp

人々が安心して暮らせる社会を実現するために、必要な力や考え方を人々が学び育むことがESDの目的です。この場合の教育とは、単に学校教育だけでなく、学校外教育(ノンフォーマル/インフォーマル教育)、すなわち、地域や社会のあらゆる場での取り組みも含まれます。

・「3つの視点」と「3つのアプローチ」で、「危機をチャンス！」に

CSRにESDの概念を導入することにより、持続可能性を目指した新たな企業経営のあり方を提案します。

